

第 17 期生 KSMS 国際学会 参加報告

第 17 期 森 直也

◆KSMS 国際学会とは…？

KSMS 国際学会は、正式名称を“Korean Scholars of Marketing Science International Conference”といい、日本商業学会も加盟する GAMMA という国際学会連合に加盟する KSMS という学会組織が開催する学会の 1 つです。2019 年は、“New Marketing in Turbulent Environment”をテーマとして、韓国の高麗大学で開催されました。例年、本学会には各国の研究者たちが発表を行う Session と、学生のみが発表を行う Session の 2 つが設けられており、小野ゼミは例年、後者の Session に出場していましたが、本年度は日韓問題の影響もあり、前者の Session のみの開催となりました。私達 17 期インゼミチームは、昨年度出場した 16 期のインゼミチームの後に続き、各国の研究者たちが発表を行う Session にて、論文発表を行いました。KSMS 国際学会への出場は、大変貴重な経験になりました。



高麗大学にて記念撮影（著者は前列中央）

◆発表までの研究活動

海外の著名な学者達を相手に論文発表を行いたいという思いを胸に、学問の世界に足を踏み入れた私達 17 期インゼミチームは、各国の研究者たちが発表を行う Session に参加することを目標に据え、論文執筆活動に取り組んできました。この Session に出場するためには、5 ページに及ぶ英文のアブストラクトを投稿し、査読を経て、発表権を獲得する必要があります。英文のアブストラクトの投稿以前に、仮説および実験の方針を定めるのに苦労していた私達は、締め切りが 1 週間後に迫った夏合宿後から、ようやく英文のアブストラクトの執筆に取り掛かりました。英語での論文執筆は容易なものではなく、日本語でなんとなく説明できていた箇所をいざ英語化しようと試みると、どう表現すればいいのか分からない、という問題が頻発しました。そんな右往左往していた私達を助けてくれたのは、他でもない我らが小野晃典先生です。小野先生は締め切りまでの間、ご自身のお忙しいスケジュールの合間を縫って、英語力がまだまだ未熟な私達が執筆した英文を数え切らない程添削してくださいました。小野先生のお力添えのおかげもあり、締め切り期限ギリギリでなんとかアブストラクトを書き上げ、投稿に至りました。投稿後、受領通知を受け取るまでは、発表権を獲得できるかどうか不安に思うこともありましたが、私達の名前が入った KSMS 国

際学会への招待状とともに、無事に発表を許可する受領通知を受け取ったときは、胸をなでおろす思いでした。

◆韓国での学会発表

学会発表当日にどうしても外せないお仕事があった小野先生に見送られる形で、私達 17 期インゼミチームは、11 月 16 日、韓国へと飛び立ちました。海外旅行でも韓国に訪れたことなかった私は、まさか国際学会で論文発表を行うために初めて韓国を訪れることになるとは、思いもしませんでした。

韓国に到着した私達は、真っ先に宿泊先のホテルへと向かいました。11 月の韓国は予想以上に寒く、日本から飛行機で約 2 時間の距離とはいえ、日本と韓国との気候の違いを実感しました。ホテルで荷物を置き、少しばかり休憩した後、私達はソウル最大の繁華街と言われる明洞へ夕食を取りに行きました。サムギョプサルやキムチ、ビビンバ、チヂミなど、それぞれ食べたいものを思い思いに注文し、皆で取り分けて食事を楽しみました。夕食後、女性陣はその足でコスメやファッション専門店など、美容大国韓国での買い物を満喫していたようです。

観光を思い切り楽しんでいたものの、羽目を外しすぎず、私達はホテルに戻った後、翌日に控えた学会発表に向けて、それぞれ夜遅くまで発表の練習や発表資料の最終確認、当日のスケジュール確認を行いました。発表が聴衆にとって分かりやすく聞き取りやすい英文になっているかなど、悔いが残らない発表にするために、最後の最後まで気を抜かずには職員同士でチェックし合いました。

翌日、私達は高麗大学での本番を迎えました。前日の練習の甲斐もあり、皆緊張しつつも普段通りのパフォーマンスを発揮し、堂々と発表を終えることができました。また、発表後の表彰式にて、光栄なことに、私達の論文が「2019 Best Conference Paper Award」という論文賞をいただきました。事前に小野先生から、論文賞を受賞できるのは学者や大学院生だけと伺っていたため、驚きが隠せませんでした。それまでなかなか論文の内容を認めてもらうことができなかつた私達でしたが、論文賞に選んでいただいた学者の方から「学部生にも関わらず、これだけ面白い論文を書いたなんてすごい。」と褒めていただいたときは、苦労が実を結び、感きわまる思いになりました。KSMS国際学会の主催者の方から発表後の懇親会にもご招待いただき、美味しい食事と普通の学生なら滅多に経験しないであろう海外の学者達との歓談を楽しむことができました。

最後に、学部生である私達がこうして海外の学者達と対等に意見を交わすことができたのは、間違いなく小野先生が時間を問わずどんな時も熱心にご指導してくださったからです。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。また、ご自身の研究で忙しい中、豊富な知見から鋭いご指摘をくださった大学院生の皆さま、そしていつも親身に相談に乗ってくださった 16 期の先輩方にも、心から感謝申し上げたいと思います。



発表後の懇親会にて記念撮影（著者は右から 4 番目）